

令和6年3月14日

厚生委員会資料

市民生活部

目 次

【報告事項】

- 1 富山市町内会アンケート調査の結果について…………… 1 頁

1 富山市町内会アンケート調査の結果について

[地域コミュニティ推進課]

(1) 調査の実施概要

①調査の目的

人口減少や少子・超高齢化の進行による役員の担い手不足、価値観や生活様式の多様化による地域コミュニティの希薄化等が懸念されるとともに、コロナ禍により地域のイベント等の縮小、延期、休止など、地域活動への制限を余儀なくされた。そこで、市内の町内会長を対象にアンケート調査を実施し、各町内会の実情やニーズを整理するとともに、町内会が抱える課題を解決する糸口を探り、今後の施策に繋げることを目的とする。

②調査の対象

市内町内会会長（1,400 余りの町内会の約 1 割にあたる 146 町内会）

③実施状況

実施期間	町内会数 (実数)	配布数 (抽出数)	回収数	未回収	回収率
令和 5 年 8 月～9 月	1,423	146	137	9	93.8%

(2) 調査結果（抜粋）

問:町内会長の業務をどう考えているかについて(上位3項目)

1	「町内会長としての責任は重い」	89.1%
2	「町内会長の仕事の負担が大きすぎる」	77.4%
3	「地域の人々に頼りにされ、やりがいのある仕事である」	69.3%
分析	多くの町内会長が責任の重さや負担の大きさを感じているが、その一方で、ある程度のやりがいを感じながら活動していることがうかがえる。	

問:町内会長として携わる業務のうち、負担が大きいと感じているものについて(上位3項目)

1	「地域の苦情処理」	69.4%
2	「祭り・運動会等の行事」、「地域要望のとりまとめ」、 「会長に割り当てられるあて職」 ※全て同数	60.6%
3	「市からの回覧・配布物」	57.7%
分析	地域住民からの苦情や要望等のとりまとめのほか、行事の運営や市から依頼されるあて職、回覧・配布物の取り扱いへの負担感が大きいことがうかがえる。	

問:町内会の活動を行っていく上での課題について(上位3項目)

1	「活動内容が慣例化している」	89.1%
2	「役員のなり手が不足している」	83.2%
3	「役員が高齢化している」	81.0%
分析	人口減少や高齢化等の影響により、活動の担い手が確保できず、苦慮していることがうかがえる。	

問:今後新しく取り組みたい、または内容を充実させたい活動について(上位3項目)

1	「災害の予防や災害時の対策についての活動」	81.8%
2	「地域の清掃やリサイクルなど地域の環境美化活動」	71.5%
3	「懇親会や旅行会など、町内会の住民との交流を図る活動」	67.2%
分析	能登半島地震以前のアンケートだが、災害への備えに関する活動への関心が高い。また、清掃活動や懇親会など、住民の満足度や団結力を高める活動も実施したいことがうかがえる。	

問:市役所などから依頼される仕事の必要性や負担感について(上位3項目)

必要性を感じるもの			負担感を感じるもの		
1	「お知らせ等の回覧」	95.6%	1	「各種委員の推薦、就任」	81.7%
2	「市広報の配布」	92.0%	2	「統計調査の調査員の推薦」	76.7%
3	「各種委員の推薦、就任」	77.3%	3	「会議などへの出席者等のとりまとめ」	73.7%
分析	必要性を感じる割合が高い「お知らせ等の回覧」、「市広報の配布」は、負担を感じる割合は 5 割を下回っている。一方、「各種委員の推薦、就任」や「統計調査の調査員の推薦」などは、必要性よりも負担を感じる割合が上回っている。				

問:町内会の活性化に必要なものについて(上位3項目)

1	「地域のリーダーとなる人材」	80.9%
2	「若い世代の地域への参画」	77.9%
3	「地域住民の意識啓発（関心をもってもらう）」	57.3%
分析	今後の活動の中心となる若い人材の確保を望む声が多いことがうかがえる。	

問:町内会活動に若い世代の参加を促すために必要なことについて(上位3項目)

1	「町内会役員等への若手の積極的な登用」	74.3%
2	「役員等の負担軽減（活動内容の見直しなど）」	72.8%
3	「若い世代の関心が高いイベント等の開催」	70.6%
分析	若手を役員等に積極的に登用するためには、負担の軽減や、若手向けのイベント等の開催が必要だと考えていることがうかがえる。	